

令和3年度

NPO 法人農スクール 活動報告

- ・ 農キャリアトレーナー育成事業
- ・ 交流会

はじめに

(1) 農スクールとは

戦前550万戸1,400人ほどいた農業就労者数は、現在168万人、65歳以上の方が全体の70%を越え、44歳未満が1%未満、平均年齢が66.8歳と、高齢化と人手不足で、危機的な状況に置かれています(2019年農林水産省調査)。

方や、働きづらさを抱える方、働きたいけど仕事がない方なども多数存在します。

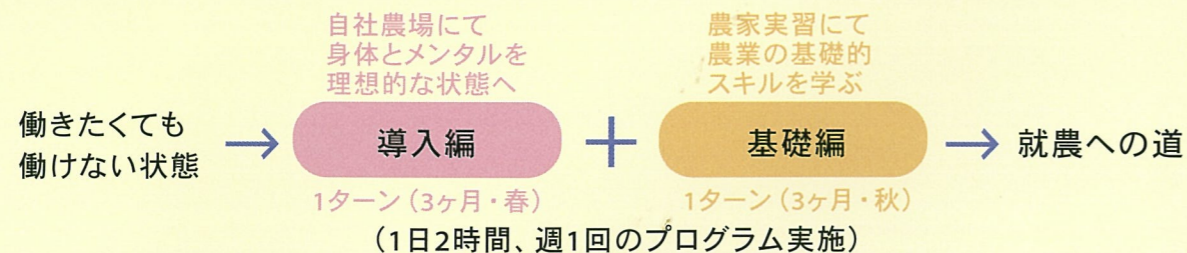
日本財団の「就労困難者に関する調査研究」(2018年)によれば、ホームレスや引きこもり、障害者、ネットカフェ難民など多様な背景を持った方々を含めると、日本の就労困難者数は、実数600万人と推定されます。(積み上げ方式のべ1,796万人)

農スクールでは、社会に何らかの働きづらさを抱えている方や働きたいけど仕事がない方と、人手不足の農業をつなげる活動をしています。

(2) プログラム内容

働き辛さを抱える方の中には、障がい車とは認められず障害者年金や福祉的就労の対象者になっていない人も多くいます。しかし、長くひきこもっていた人や、精神病などに雇われ休養していた人が、回復したからといってすぐに一般就労を始めることは心理的・体力的にハードルが高いのではないかと考えています。そういった制度の狭間にいる人たちに対し、一般就労する上で必要なことを農作業を通じて身につけてもらうプログラムを行なっています。

週に1回2時間程度畑に集まり、一緒になって農作業を行います。
1ターン10回(3ヶ月程度)で外に出て体を動かすことに慣れ、就農を目指したいと思った方は、次の基礎編(農家実習)に進みます。



(3) 令和3年度 独立行政法人福祉医療機構での事業

農スクールの活動を広げ、強化するために下記2つのことを行いました。

① 農キャリアトレーナーの育成システムの構築

農スクールプログラムの開催を全国各地で行えるようになるよう、プログラムを行う農キャリアトレーナーの育成講座づくりに取り組み、入門編を開催しました。

② 受講生、卒業生、関係者の交流会

農スクールの受講生やプログラムを過去受講した方、サポーターなど関係者を集め、交流会を開催しました。

1. 農キャリアトレーナーの育成システムの構築

① 農キャリアトレーナー育成プログラムの構築

これまで当団体ではトレーナーを育成するための様々な実践を行ってきました。トレーナーとして必要な能力はなにか、それらを取得するのにどの程度の時間を要するか、といったことを改めて捉え直し、トレーナーになるための教育プログラムを構築しました。

トレーナーの能力を、サブトレーナー、メイントレーナー、マネージャーと3段階に分け、手軽に関わり始めることができ、ステップを踏んでいくことでできることが増える形式にしました。



農キャリアトレーナーに必要な能力

農キャリアトレーナー資格取得まで

	農キャリアトレーナー入門	農キャリアトレーナー育成講座	農キャリアトレーナー上級講座	OJTプログラム	受講時間合計
マネージャー	×	10時間	90時間	40時間	140時間
トレーナー	×	10時間	×	20~40時間	30~50時間
サブトレーナー	1.5時間	×	×	—	1.5時間

※OJTプログラムは、NPO農スクールが提供している「就農支援プログラム」に実際に参加していただく形となります。

※「農キャリアトレーナー上級講座」は、農業者は免除となります。

各種 農キャリアトレーナーができること

農キャリア
マネージャー

就農支援プログラム全般を提供できるようになります

農キャリア
メイントレーナー

就農支援プログラムに責任者として参加し、導入編・基礎編・就職準備編のプログラム提供ができます

農キャリア
マネージャー

就農支援プログラムに農キャリア・メイントレーナーのアシスタントとして参加できます

② 農キャリアトレーナー入門マニュアル作成

育成システムの入り口である入門講座でのマニュアルを作成しました。

農キャリアトレーナー入門マニュアルでは、プログラムやトレーナーの全体像をつかんでもらえる内容にしました。

〈内容〉

プログラムの具体的な流れ

トレーナーのインタビュー

農スクールプログラム卒業生インタビュー

トレーナー心構え など



③ 農キャリアトレーナーHPの作成

入門マニュアルに記載したことに加え、農キャリアトレーナーのより詳しい説明、活動実績、実際にトレーナーになるための講座受講の流れ、問い合わせフォームなどを作成しました。またこちらは受講者だけでなく、行政など自治体の方のプログラム導入の推進も意識した内容を盛り込みました。

〈内容〉

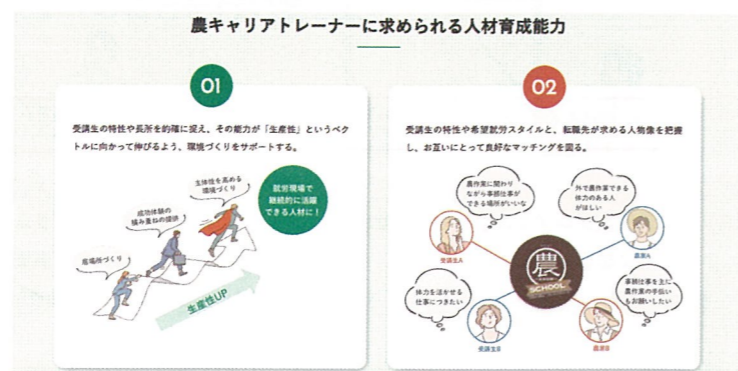
農キャリアトレーナーとは何か

自治体などの活用事例

受講案内

よくある質問 など

農キャリアトレーナーHP QRコード



④ 農キャリアトレーナー入門講座の作成

マニュアル、HPに加え、それと連動させる形の入門講座を作成しました。まず第一段階としてより多くの人にプログラムやトレーナーについて知ってもらう必要があるため、下記2つの特徴を持つ講座にしました。

1, 講座の開催回数を今後増やしていけるよう、講座を撮影・編集し動画にしました

2, 地域によらず受講できるように、入門講座はオンライン上で開催しました※

※初め実地での開催も考えていたが新型コロナウイルス感染拡大がどのようになるか読めなかった。

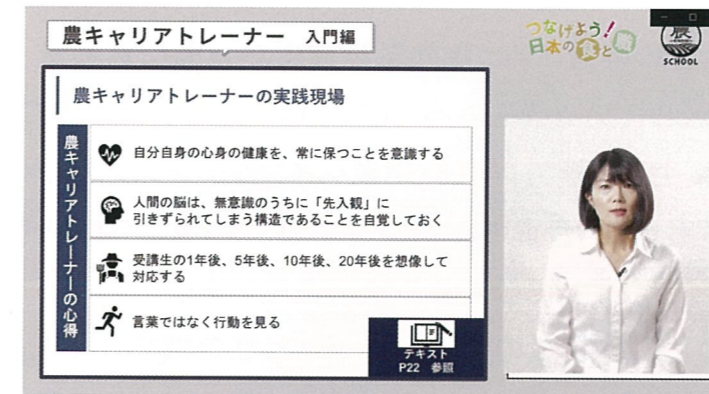
⑤ 農キャリアトレーナー入門講座の開催

入門講座を3回開催しました。元々定員は30名で募集したところ、合計83名の方にお申込みいただきそのうち当日は65名の方にご参加いただきました。

・2月10日(木) 25名参加

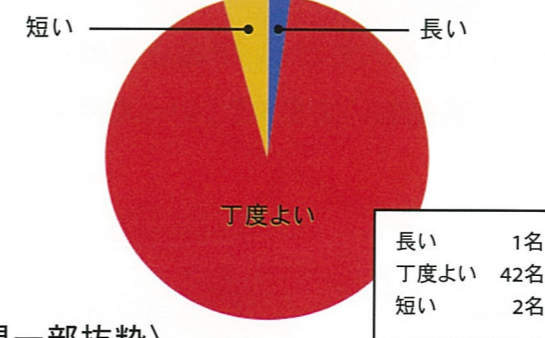
・2月11日(金) 27名参加

・2月12日(土) 13名参加

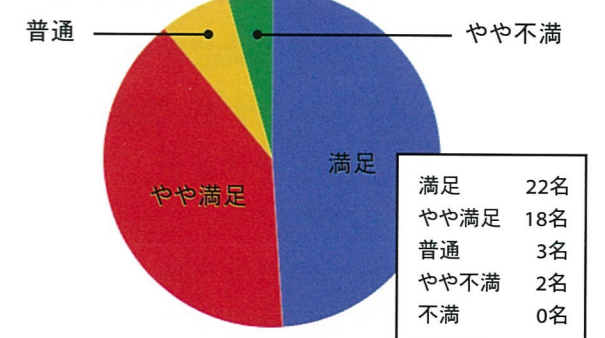


アンケート結果(回答数45名)

講座の時間はいかがだったでしょうか？



講座の内容はいかがだったでしょうか？



〈感想一部抜粋〉

- ・農キャリアトレーナーとしての心得は、今の職場にも通ずるところがたくさんあり、勉強になりました。
- ・私も農家になって障がいのあるなしに関わらず居場所を作りたいと思っていたので、興味深く聞きました。就農支援までは考えてなかったのですが、現在の会社が就労支援として考えているので参考になりました。
- ・宮城県でも資格が取れるような整備、楽しみにしています。
- ・畑や田んぼをベースにした居場所づくりに取り組む自身の活動とも共通する部分も多く、素敵な活動で応援したいと感じました。何か一緒にできればと思いました。

2、交流会の開催

農スクールプログラム受講生や、卒業生（かつてプログラムを受講した方）、サポーターの皆様を招き、交流会を開催しました。

・ 交流会

日時：11月23日（火）14時30分～16時30分

場所：農スクールの農園

参加者：34名（内、受講生・卒業生12名）

・ 当日の流れ

14:00～14:30 移動・集合

14:30～14:35 開会のあいさつ

14:35～14:45 参加者自己紹介

14:45～15:20 サツマイモ掘り、人参収穫、紅芯大根収穫

15:20～16:25 交流会

16:25～16:30 終わりのあいさつ、お土産を配る

・ 交流会の意義

① 受講生にとって

受講生にとっては、農スクールに通ったという自分と近い境遇にあった先輩卒業生が実際に農業法人に就職したり、自分で独立して農業経営を営んだりしている姿をみることで、ロールモデルを持つことができることにあります。さらに、そこで先輩卒業生から遠方の農業組織へインターンシップに行った話などを聞くことで、自分にもできると一歩踏み出せるよう背中を押す効果もあります。今回もそのことが影響してか、北海道の農業組織へのインターンシップに参加する受講生もいました。

また、これまであったケースとして、交流会が先輩の就職先企業の社長との顔合わせの機会となり、就職につながったこともあります。

② 卒業生にとって

卒業生にとっては、就職してからのことを振り替える機会になり、現在の受講生やサポーターの方に卒業後の経験を話すことが一つ自信をつけるきっかけとなっています。

また、卒業生の中には仕事のことや日々の生活のことで悩んでいる人もおり、卒業後気軽に農園に来てよいと伝えてはいますが、実際には気を使ってしまう卒業生もいます。そういった卒業生が、顔を出せる機会にもなっています。



・ 交流会の様子



総勢34名集まり、農園での交流会開催となりました。

当団体代表小島の挨拶から始まり、その後一人ずつ名前を言い終わった後、サツマイモ掘りに移りました。

卒業後久しぶりに会う受講生たちはお互い少し照れながら方々に会話をしていました。



サツマイモ掘りは、卒業生に音頭をとってもらい、掘り方を説明頂きました。今回サツマイモの出来が悪く、サツマイモだけではとても満足いくものではなかったため、人参・紅芯ダイコンの収穫も行いました。

収穫後少しの時間休憩をとり、その後テーブルを囲んで交流の時間となりました。

現在農業で働いている方に立ってもらい、紹介を行った後、乾杯の挨拶を卒業生に行ってもらいました。

途中色々な方とお話ができるよう、席を入れ替えました。農業で働く卒業生の方が、現役生の方や支援者の方に自信のある様子でお話している姿、現役生の方が質問する姿が見られました。

最後、小島からの挨拶で交流会は締めくくられました。





NPO法人農スクール

住所：神奈川県藤沢市葛原1100-9
メール：info@know-school.org
HP：https://know-school.org/



月額250円からの
「農スクールのサポーター」
はじめませんか？